

石川功一の水彩・油彩展
軽井沢の花と実

ヘクソカズラ、ミツバアケビ、カラハナソウ、ヒオウギ、アヤメ、アワブキ、チゴユリ
 ウド、トチバニンジン、アマチャヅル、ツノハシバミ、ミクリ、ニワトコ、ミヤマガマズミ
 アラゲガマズミ、オトコヨウゾメ、ヤブデマリ、カンボク、ノブキ、キブシ、イケマ
 オキナグサ、ルイヨウショウマ、ボタンヅル、ヤマトリカブト、マイヅルソウ、ユキザサ
 スズラン、アマドコロ、ナルコユリ、アブラチャン、ダンコウバイ、クロモジ、クマヤナギ
 ナガミノツルキケマン、カルイザワテンナンショウ、ヤマガシユウ、サルナシ、シオデ
 ムラサキシキブ、ハナヒョウダン、ボク、ハナヒョウダンボク、ミヤマウグイスカグラ
 キンギンボク、スイカズラ、ナツハゼ、ウスノギ、ヤマブドウ(クロマメノキ)
 コケモモ、ギンリョウソウ、ツユクサ、イヌホオズミ、ツリバナ
 ツルウメモドキ、サワフタギ、ハナイカダ、オオバマンサク、クサボケ、カマツカ、
 ノイバラ、クサボケ、カマツカ、ウワミズザクザク、ヤマザクラ、ミヤマザクラ
 ナワシロイチゴ、バライチゴ、ヘビイチゴ、モミジイチゴ、クロイチゴ、エビガライチゴ
 フサザクラ、ヤマブドウ、ノブドウ、ヤマシャクヤク、ベニバナヤマシャクヤク
 マタタビ、サルナシ、チョウセンゴミシ、ツルマメ、スズビトハギ、ヤブマメ
 オオバマンサク、コクサギ、ミズキ、ヤマボウシ、ゴゼンタチバナ、ミツバウツギ
 チドリノキ、コハウチワカエデ、ウリカエデ、ウチワドコロ、オニトコロ、コブシ
 イボタノキ、ツバメオモト、ヤマユリ、ウバユリ、コオニユリ、ヤマホトトギス
 カタクリ、ツルリンドウ、ユウスゲ(アサマキスゲ) 以上、軽井沢の花



ヘクソカズラ、ミツバアケビ、カラハナソウ、ヒオウギ、アヤメ、アワブキ、チゴユリ
 ウド、トチバニンジン、アマチャヅル、ツノハシバミ、ミクリ、ミヤマガマズミ、ニワトコ
 アラゲガマズミ、オトコヨウゾメ、ヤブデマリ、カンボク、ノブキ、キブシ、イケマ
 オキナグサ、ルイヨウショウマ、ボタンヅル、ヤマトリカブト、マイヅルソウ、ユキザサ
 スズラン、アマドコロ、ナルコユリ、アブラチャン、ダンコウバイ、クロモジ、クマヤナギ
 ナガミノツルキケマン、カルイザワテンナンショウ、ヤマガシユウ、サルナシ、シオデ
 ムラサキシキブ、ハナヒョウダン、ボク、ハナヒョウダンボク、ミヤマウグイスカグラ
 キンギンボク、スイカズラ、ナツハゼ、ウスノギ、ヤマブドウ(クロマメノキ)
 コケモモ、ギンリョウソウ、ツユクサ、イヌホオズミ、ツリバナ
 ツルウメモドキ、サワフタギ、ハナイカダ、オオバマンサク、クサボケ、カマツカ、
 ノイバラ、クサボケ、カマツカ、ウワミズザクザク、ヤマザクラ、ミヤマザクラ
 ナワシロイチゴ、バライチゴ、ヘビイチゴ、モミジイチゴ、クロイチゴ、エビガライチゴ
 フサザクラ、ヤマブドウ、ノブドウ、ヤマシャクヤク、ベニバナヤマシャクヤク
 マタタビ、サルナシ、チョウセンゴミシ、ツルマメ、スズビトハギ、ヤブマメ
 オオバマンサク、コクサギ、ミズキ、ヤマボウシ、ゴゼンタチバナ、ミツバウツギ
 チドリノキ、コハウチワカエデ、ウリカエデ、ウチワドコロ、オニトコロ、コブシ
 イボタノキ、ツバメオモト、ヤマユリ、ウバユリ、コオニユリ、ヤマホトトギス
 カタクリ、ツルリンドウ、ユウスゲ(アサマキスゲ) 以上、軽井沢の実



石川功一《クサボケ(草木瓜)》花 1990年、実 1986年 共に水彩スケッチ Kōichi Ishikawa 《Kusaboke》 Flower 1990, Fruit 1986, Watercolor painting

小さな美術館 軽井沢草花館
2025 4/26 土 - 11/16 日
 開館時間 10:00 ~ 17:00 入館料 500円 (中学生以上)、小学生以下無料
 休館日 火曜日 但し、4/29、5/6、9/23の火曜は開館、11/17以降冬期休館
<https://kusabana.net> Tel.0267-42-0716



軽井沢駅北口から約500m 地図QRコード
 場所は右のQRコードをスマホで読み取るか、裏面の地図をご参照下さい

石川功一の水彩・油彩展

軽井沢の花と実

Kōichi Ishikawa water & oil painting exhibition.
Flowers and Fruits of Karuizawa

本展は画家・石川功一が描いた軽井沢自生の草花図(水彩・油彩)の中から「花の時」と「実の時」を描いた作品を並べて紹介する企画展です。花から実へと、季節に応じて変化する草花たちの姿をお楽しみ下さい。

水彩スケッチと油彩画の作品の中から、花と実の組合せ20組(40点)程を常時展示し、会期中に少しずつ入れ替えていきながら、約40組(80点)を紹介します。



ニワトコ(実) 2002 カンバス油彩 4号



マイヅルソウ(花) 1986 水彩スケッチ

マイヅルソウ(実) 1987 水彩スケッチ



ニワトコ(花) 1987 水彩スケッチ

小さな美術館 軽井沢草花館(かるいざわ くさばなかん)

画家・石川功一が描き続けた軽井沢自生の草花図(水彩スケッチと油彩画)を展示する小さな個人美術館。

石川功一の草花油彩画百数十点と水彩スケッチ(約950種、3,000余枚)をはじめ、人物デッサン、人物、風景画を所有し、草花図を中心とした様々な企画展を開催している。

軽井沢に自生する草花を愛した石川功一の経歴と活動

1937年(昭和12年)三重県伊賀市阿保(旧・名賀郡青山町)で開業医の二男として出生。20才の時に大志をいだき東京に出奔、マンガ家となる。その後、画家への道をめざしデッサンに明け暮れる。30才の頃より描きはじめたドローイング「人間戯画」が銀座の画廊に認められ、援助を受けることになる。以降、人物画を中心に画家としての活動を続ける。

1981年(44才)、個展のため軽井沢を訪れたことが縁で草花と出会い、草花画が本来目指すべき道だと悟り、草花のスケッチと油彩画制作に新しい境地を開いた。草花本来の姿を描き取るため、スケッチは自ら軽井沢の野山を駆け巡り、自生している状態を描き続けた。油彩画は背景の色を何層にも重ねる独自の画法で、日本画のような繊細な画風を生み出した。



近年開発の中で自生地が狭められ、消えゆく草花が増える中、「軽井沢の自然に息づく草花の永遠の命を残す」をテーマに草花画の制作を続けた。

2007年7月永眠(満70才)

